

---

# 蛙は空に

来々

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蛙は空に

### 【Nコード】

N3422C

### 【作者名】

来々

### 【あらすじ】

僕が空が好きなんだ。飛んでる鳥が、とても気持ち良さそうに見えるから。羨ましくて、僕は必死で跳ねている。ほら、あと少しで手が届く。

蛙が教えてくれる、命の話。

僕は空が飛びたいんだ。

ピョン、ピョーン。

青く澄んだ空が好きだから。そこに浮かんだ雲が愛しいから。そこから落ちる、雨の雫が美しいから。

ピョン、ピョーン。

鳥はとても気持ち良さそうに飛んでいる。  
僕は羨ましくて、必死で跳んでいる。

『飛ぶ』・『跳ぶ』

翼に憧れて、飛翔にあこがれて。

青空は気持ちいいんだろうなあ。雲は近くで見たら迫力だろうなあ。  
あ。雨は少し冷たいのかな？

ピョン、ピョーン。

ある晴れた夏の日。僕はいつものように、友達と一緒に空を見ていた。

「今日の空は、一段と凄いな」

友達が言った。彼は毎日、空を見るたびに同じ事を言うんだ。

「今日の空は、一体どこが一段とすごいのか？」

僕は彼が同じ事を言うたびに、決まってこう返した。すると彼は満面の笑顔になり、今日の空の説明をはじめた。

「この突き抜けるような、青さ！ 燦々と注ぐ太陽！ ずっとずっと彼方に見える入道雲！ この空の、どこが凄くないと言えるんだい？」

彼はそう言うとき、思いっきり体を膨らませて空気を吸い込んだ。

「ほら！ 今日のような日には、空気にまで太陽が染み込んでいるよ。」

僕は頷いて、彼みたいに空気を吸い込んだ。なるほど。たしかに空気に暖かみがある。

僕は、澄ました顔をしている彼に向かって、

「それと、空の青さも溶けているみたいだね」

と言った。彼は少しだけ驚いた顔をして、それからまた笑った。

やがて、太陽が真上に達した。僕はこの時の空が一番好きだった。彼は、夕焼け空が一番好きで、そこだけが二人の気が合わない、唯一の所。

何も言わずに空を見ていると、何だか少しだけ空に近付いた気がして、僕は嬉しくなって、思わずジャンプした。

色々と考え事をしている内に、人間が近くに来ていることに気が付いた。

僕は怖くなり、

「ねえ、人が来たよ。そろそろ帰ろう。」

と、彼に言った。  
すると彼は、

「ちょっと待って！」

と、僕を引き止める。

「どうして？」

と僕が言くと、彼は

「お父さんから聞いた事があるんだ。人間はたまに、俺達蛙を空に連れてってくれるんだって」

と言った。僕は瞬時に興味が沸いて来た。

「どうやって?」

「なんでも、空に打ち上げる装置があるそうなんだ」

少しだけ、沈黙が流れた。

僕は、溢れ出てくる空への好奇心を抑えて言った。

「でも、やっぱり人間は怖いよ」

すると彼は、

「そうか……。でも、俺は行く。空を飛ぶ事こそが、俺の夢だからな」

そう言って跳びはねた。

そうしたら直ぐに人間がやって来て、彼を捕まえた。

彼は連れて行かれる途中、恐怖で物陰に隠れていた僕に、

「まあ、夕焼け空じゃないのが残念だけだな」

と言って微笑んだ。

それからしばらくして、彼が連れて行かれた方向から、パシユッ!という音がした。

慌ててそちらに目を向けると、数本の棒のような物にくくりつけら

れた彼が、青空へと飛び立っていた。

シュシュシュという音と共に、不思議な放物線を描いて青空に向かっていく彼。

少しだけ僕を見て、笑った気がした。

やがてそれは、僕がいくらジャンプしても、全然届かない位の高い所まで飛んで行って、

そして、

『パーンッ』

という音と共に、弾けて消えた。

そうか。彼は、鳥たちを通り越して星になったんだ。

「空はどうだった？」

という質問が出来ないのは残念だったが、僕は彼が、凄く羨ましくなった。

青空と、鳥たちと、星になった彼に憧れて。

ピョン、ピョーン。

僕はまた、跳びはじめる。

\*

\*

\*

「な、面白かっただろ？」

「うん……。でもいいのかな？ ロケット花火に蛙を結びつけて飛ばすなんて……。死んじゃったのかなあ？ あの蛙」

「ああ、そりゃそうだろ。だって最後、爆発したし」



（後書き）

皆さんお久しぶりです。来々です。今回の作品は、いかがでしたか？『童話』というジャンルには、多少合っていない感がありますが、それでも『教訓』を与えるという点において、多少は満足が出来るかなあと思っています。それでは、次回作にこそご期待下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3422c/>

---

蛙は空に

2010年10月9日02時20分発行